

1 教科について

国語

※ 全国学力・学習状況調査については、調査を実施した場合、調査実施後、改善計画に付け加える。

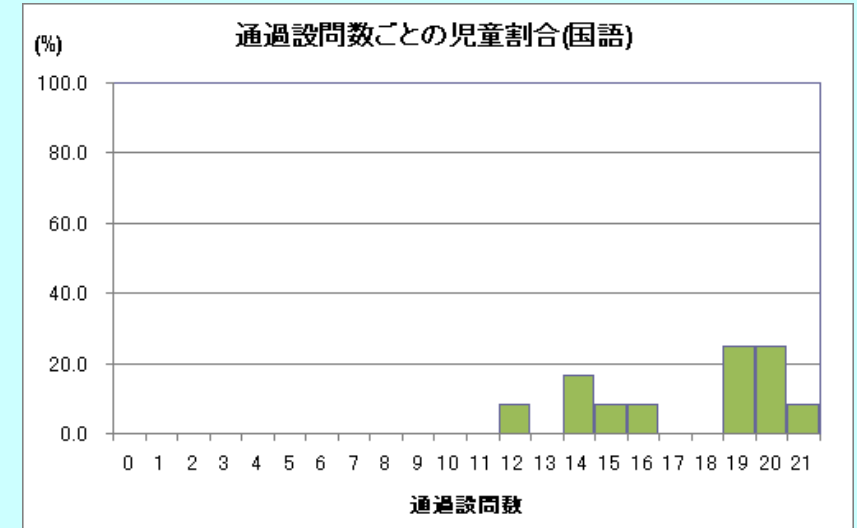
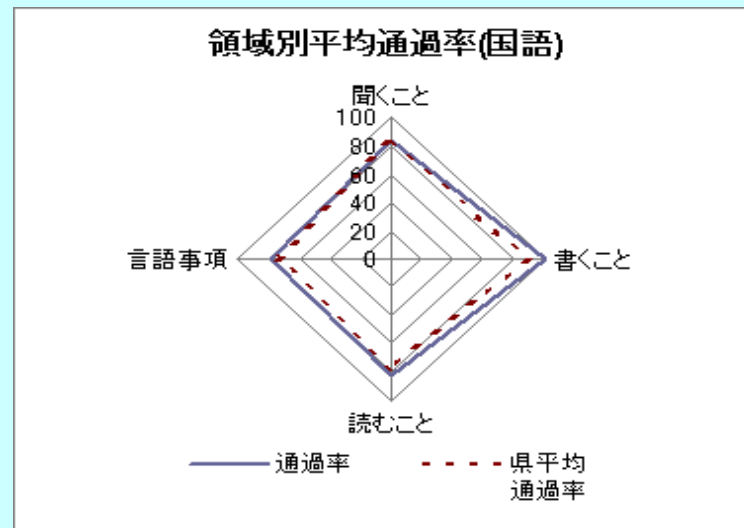
昨年度の課題

- ① 文と文の意味のつながりを考えながら、文章を正しく読む。(57.1%)
- ② 文の中における主語と述語との関係に注意すること(14.3%)
- ③ 文と文との意味のつながりを理解し、文の論理を考えて書く。(21.4%)
- ④ 話し手が聞き手に問いかけることによる効果や、聞き手が話し手に問いかけられることによる効果について理解する。(21.4%)

昨年度の課題を受けて
具体的に取組んだ事項

- ① リライト教材やプリント学習などを行いながら、学年ごとに系統的に「言語事項」に関わる学習を行っていく。
- ② 日常的な「話す・聞く」場面(授業の中、発表朝会など)で接続詞を意識して、論理的に表現することができるようにしていく。そのために、モデルとなる「型」を提示し、意識づけていく。
- ③ 読書指導の充実を図り、量と質を高める取り組みを進める。
(読書貯金通帳、学年別必読書の設定)

「基礎・基本」定着状況調査通過率 学校平均 **82.9%** 県平均 **78.5%**



重点課題 ◎:「基礎・基本」定着状況調査
◇:全国学力・学習状況調査

- ◎・・・第3学年の漢字の書き。(58.3%)
- ◎・・・ローマ字の書き(58.3%)
- ◎・・・場面の移り変わりや情景の想像。(58.3%)

重点課題に対応した改善する指導内容及び方法

- ①漢字の読み書きを定着させる指導
 - ・学びタイム、家庭学習での反復練習→短期目標(いつまでに、この範囲を、○点以上とれるように)を持たせた漢字テストの実施→間違い直しの徹底・再テスト等により定着を図る。
- ②ローマ字の読み書き指導
 - ・ローマ字のプリント学習、ローマ字日記など日常的な反復練習
- ③叙述に即した読み取り指導と言語活動の充実
 - ・物語文の読み取りの学習において、付きたい力を明確にした言語活動(単元全体を通して、授業の中で)の充実を図り、児童の「伝え合う力」「確かなことばの力」を育てる。
 - ・場面の様子や人物の心情などを叙述に即して読み、叙述を根拠にして、理由付けをしながら考えを伝え合う学習を進める。

来年度の目標値

○通過率70%以上の児童を50%にする。

指導方法等の改善計画について

算 数

※ 全国学力・学習状況調査については、調査を実施した場合、調査実施後、改善計画に付け加える。

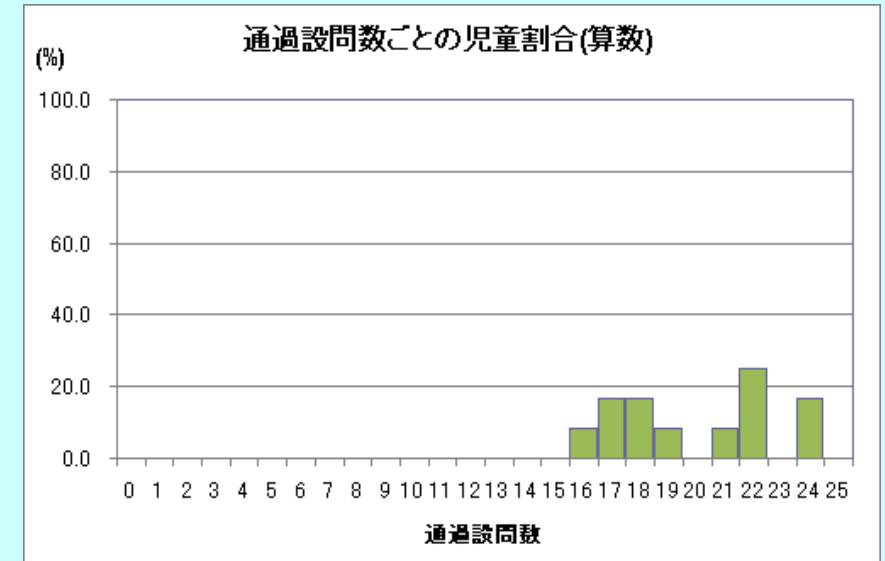
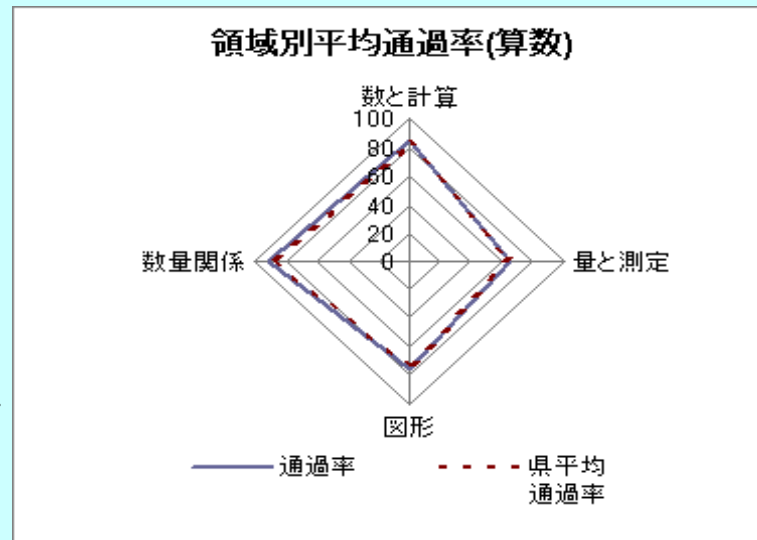
昨年度の課題

- ① 「数と計算」
除法に関して成り立つ性質 (28.6%)
- ② 「量と測定」
重さの比較 (42.9%)
- ③ 「数量関係」
伴って変わる2つの数量 (42.9%)
割合 (42.9%)
分数の意味と表し方 (21.4%)

昨年度の課題を受けて 具体的に取り組んだ事項

- ① 四則計算を確実にさせる指導
 - ・ 学びタイムや家庭学習で計算練習をさせ、習熟を図る。
- ② 文章問題から数量関係を把握し、立式・計算させる指導
 - ・ 分かっていることや求めることに線を引かせて問題文をとらえさせる。
 - ・ 線分図や表などで、問題文にある数量の関係をまとめさせる。
- ③ 算数的活動を取り入れた指導
 - ・ 具体物や操作活動を取り入れて興味関心を持たせるとともに学習内容の定着を図る。

「基礎・基本」定着状況調査通過率 学校平均 **80.8%** 県平均 **77.8%**



重点課題 ◎ : 「基礎・基本」定着状況調査 ◇ : 全国学力・学習状況調査

- 「数と計算」
◎分数の意味と表し方 (50.0%)
◎数の相対的な大きさの理解 (50.0%)
- 「量と測定」
◎およその重さ (41.7%)
◎角の測定 (41.7%)

重点課題に対応した改善する指導内容及び方法

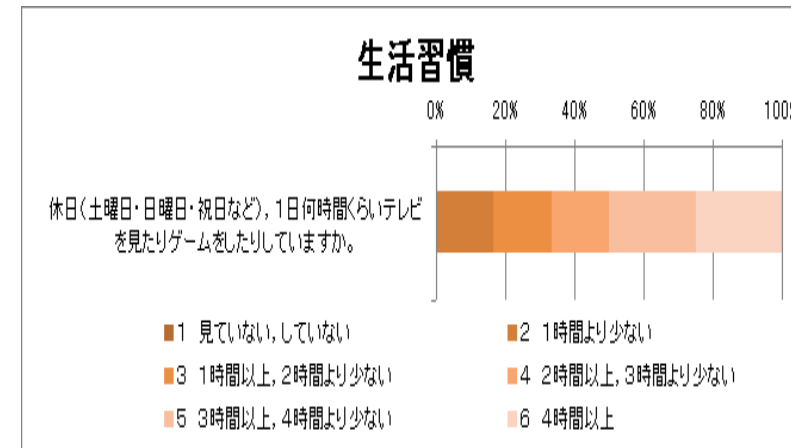
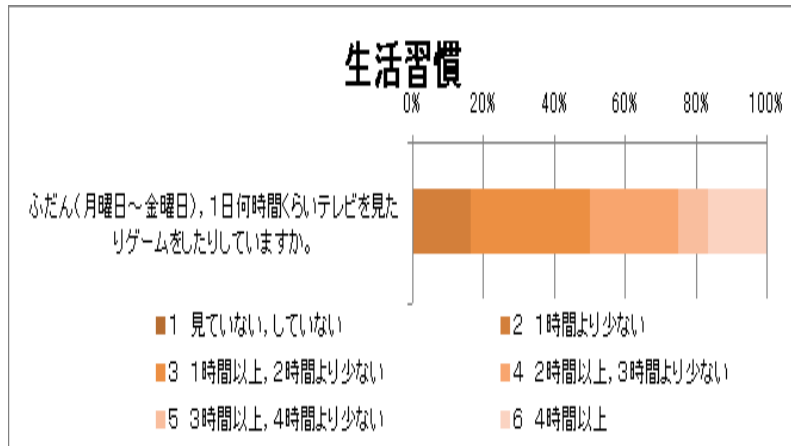
- ①算数的活動と言語活動を位置づけた指導
 - ・ 具体物や操作活動を取り入れ、問題解決の筋道をイメージ化させる。その解き方・考え方を書いたり説明し合ったりすることにより、思考力・表現力を鍛えると共に理解の定着を図る。
- ②学びタイムや家庭学習で反復練習をさせ、小テスト・単元末テスト等で定着度を確認しながら取り組む。また、個別指導により学力補充を行い、学力向上を図る。

来年度の目標値

○通過率70%以上の児童を50%にする。

2 質問紙調査（「基礎・基本」定着状況調査：学校質問紙調査，児童質問紙調査）（全国学力・学習状況調査：学校質問紙，児童質問紙）

(1) 生活・学習

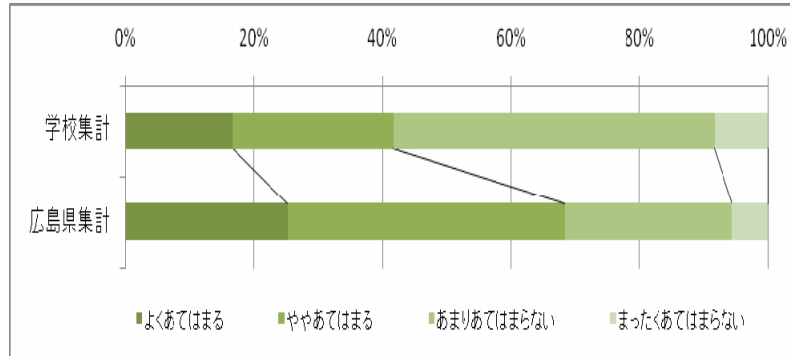


改善したい点 (◎「基礎・基本」，◇「全国」)	今後の具体的な取組の内容
◎テレビ・ゲームの時間 平日2時間以上3時間未満(25%)3時間以上4時間未満(8.3%) 4時間以上(16.7%) 休日2時間以上3時間未満(16.7%)3時間以上4時間未満 (25%)4時間以上(25%) ◎困ったときや腹が立ったときなど，解決するために，相手が納得するように自分の気持ちを言葉で伝えることができていない(41.7%)，なぜそうなるのか理由をつけて話すことができていない(41.6%) ⇒コミュニケーション能力	○家庭との連携を図り，テレビ・ゲームの時間を少なくし，学習時間を増やしていくように取り組んでいく。 ・テレビ・ゲームの時間(平日2時間未満) ・家庭学習の時間(学年×10分)以上 ・自主学習(予習・復習)の仕方 ・ゲーム以外の遊びや運動を奨励 ○人の話をしっかり聞き相手の思いを受け止め，自分の思いをはっきり言葉で伝えることができる力をつけていく。 ・日常的な指導(集中して聞く，聞いたことの確認，復唱，まとめて話す力，理由付け) ・自己主張訓練(アサーショントレーニング)を行う。

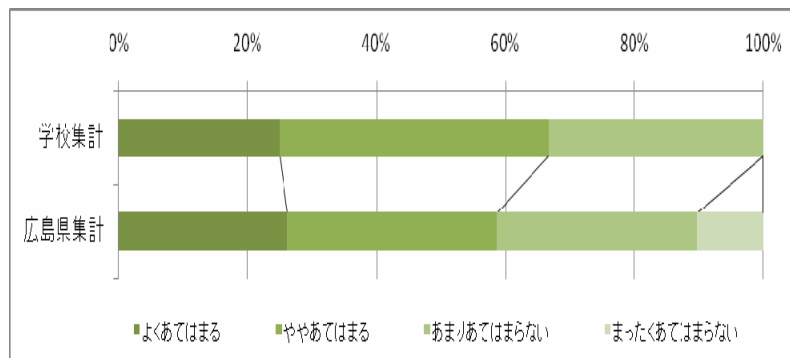
<p>来年度の目標値</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生活リズムの習慣化を図る。(テレビ・ゲームの時間…平日2時間未満90%) ・困ったときや腹が立ったときなど，解決するために，相手が納得するように自分の気持ちを言葉で伝えたり，なぜそうなるのか理由をつけて話したりすることができる。(70%以上)
----------------	---

(2) 教科

国語の授業では、相手が自分に何を伝えたいのか話の中心を考えながら聞いています。



算数の授業では、理由をあげて自分の考え方やとき方を説明しています。



	児童の回答と学校の指導についての課題 (◎「基礎・基本」、◇「全国」)	授業改善の方向性や具体的な取組
国語	<p>◎・・・国語の授業では、相手が自分に何を伝えたいのか話の中心を考えながら聞いています。(肯定的回答率 昨年度 85.8%, 今年度 41.7%)</p> <p>◎・・・国語の授業では、メモをとりながら聞くことがあります。(肯定的回答率 昨年度 42.9%, 今年度 16.7%)</p> <p>◎学校指導・・・「聞くこと」の指導において、話の中心に気をつけて聞かせるために、大事な内容をキーワードでメモしたり、関係の線で結んだりするなどの具体的なメモの取り方の指導を行った。(ややあてはまる)</p> <p>国語の授業で、キーワードを箇条書きでメモする指導を行ったが、実際に総合的な学習の時間や社会科の授業でメモをする場合、キーワードではなく、聞いたことを全部メモしようとする姿があった。話の内容の大事な部分を中心に聞き取ることは難しい。また、メモだけでなく、話の内容の大事な部分を聞き取り、まとめて話をするのも難しい。算数でも同じ説明を繰り返す活動をしたが、自分なりに工夫してよりよい説明にせず、聞いたことを繰り返すことが多かった。これらのことから、「聞くこと」について授業の単元で学習はしているが、聞いたことをキーワードでメモすることや、まとめて話すなど、日常において学習した内容を繰り返し、定着させる必要がある。</p>	<p>○授業において、自分の意見をもつために書く場を設定し、意見を交流することを大切にして取り組んでいる。しかし、現状としては、自分の考えをもち発表することはできても、「伝え合う」「友だちの意見に関わらせながら発言する」という段階まではいっていない。<u>相手が何を伝えようとしているのか考えながら聞き、それに関わらせて発言できるように、全校で「伝え合う」「かかわらせる」をキーワードに取り組んでいる。授業研究を通して相互評価しながら取り組み、徹底する。</u></p> <p>○「話す・聞く」学習場面(授業や発表朝会など)において、<u>メモを取る活動を意図的に取り入れる。また、それらを生かす場(社会見学など)をつくっていく。そして、児童のよいメモの取り方を評価し広めていく。</u></p> <p>○発表朝会で、話す相手が何を伝えようとしているのか考えて聞き、その発表に対して感想・意見を述べることを指導している。<u>話型を提示し取り組んできた結果、話型に沿って感想・意見を述べることができる児童が増えてきた。これまでは、話型に沿って話すことができることを中心に評価してきたが、話の内容・要点をとらえた感想・意見を評価することによって、発言の質を高めていく。</u></p>
算数	<p>◎・・・算数の授業では、理由をあげて自分の考え方や解き方を説明しています。(肯定回答率 昨年度 57.1% 今年度 66.7%)</p> <p>◎学校指導・・・友達の考えと自分の考えを比べさせるために、それぞれの考え方や解き方を説明させるなどの指導の工夫を行った。(よくあてはまる)</p> <p>算数の授業で、自分の考え方や解き方を書かせたり言わせたりする指導をしていた。朝の会でのキーポイントのくり返し暗唱で、分数の意味や図形の定義など知識としては入っているが、実際に初めての問題に当たると、既習事項を用いて、慎重に解くことが難しい。あせらず問題をよくよむことや簡単な数字に置き換えるなどして、いろんな問題に当たって解く経験が必要である。</p>	<p>○授業に付けたい力を明確にした言語活動を取り入れ、<u>学習内容の理解と定着を図る。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えをもつ書く場の設定 ・自分の考え方や解き方の説明 ・ふり返り(算数的用語を使った学習のまとめ、友だちとの学び合いをしての感想など) <p>○<u>いろいろな基本問題・活用問題を与え、習熟を図る。</u>(出題形式が変わっても迷わず解くことができるように問題の与え方も工夫をしていく。)</p>

来年度の目標値	<ul style="list-style-type: none">・「国語の授業では、相手が自分に何を伝えようとしているのか話の中心を考えながら聞いています。」の肯定的回答率を60%以上にする。・「算数の授業では、理由をあげて自分の考え方や解き方を説明しています。」の肯定的回答率を70%以上にする。
---------	--

指導改善のための実施スケジュール

